関西学院大学人間福祉学部　社会起業学科主催

英国における分権と市民自治

講演について

英国におけるガバナンス研究の第一人者であるV.ラウンズ教授が、英国の自治体での地域内分権と市民参画について、最新の政策・研究動向を講演します。政府と地方自治体間の権限委譲だけでなく、自治体内の小地域を基礎としたガバナンス機構の確立、その機構への市民の主体的な参画など、地方分権が地域で暮らす人たちのためになる点について、英国の経験からわかりやすく解説します。主な内容は、ネイバーフッド（近隣地域）レベルのガバナンス、地域内分権、小地域における公共サービス供給のあり方、地域住民へのエンパワメントなどです。

ヴィヴィアン・ラウンズ氏

エセックス大学行政学部講師、バーミンガム大学地方自治研究所上級講師を経て、1997年よりデュ・モンフル大学公共政策学部教授（地方自治論）

【主要業績】

Lowndes, V. and Sullivan, H. (2008) 'How low can you go? Rationales and challenges for neighbourhood governance', *Public Administration*, Vol 86, No 1, pp 1-22Lowndes, V., Pratchett, L. and Stoker, G. (2006) 'Local political participation: the impact of rules-in-use', *Public Administration*, Vol 84, No 3, pp 539-561

開催日：2010年1月12日

開催時間：午後7時から午後9時00分

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス10階1005

参加費：無料（定員45名）（申込不要）

＊通訳と訳文配布資料あり

問い合わせ：関西学院大学　人間福祉学部
実践教育支援室（川本）
電話：0798－54－6272